

## お菊人形

1918年、17歳の鈴木英吉は、札幌の有名な狸小路で人形を購入し、2歳の妹お菊に贈りました。少女はその人形に恋をしたが、数年後、お菊は風邪で急死した。

家族は少女に敬意を表して、お菊の記憶を祈るために人形を祭壇に置くことに決めました。すぐに、家族は人形の髪が伸びたことに気づき始めました..

1938年までに、鈴木家は人形を引っ越すことを決定し、現在40センチの人形が展示されている万年寺に人形を預けることにしました。..